

## 学ぶ楽しさが実感できる学習をめざして

金沢市立安原小学校


### 1 事例の概要

(1) 研究主題 学ぶ楽しさが実感できる学習をめざして  
～算数科における学び合う姿を求めて～

#### (2) 研究主題設定の理由

本校では「学ぶ楽しさが実感できる学習」に迫るために、課題解決的な学習パターンの定着を図りながら一人一人を大切にしたい支援を行っている。その中で生じた授業改善の視点から、校内研究の充実を図り、教師力・授業力の向上をめざしている。本年度は特に算数科を通して学ぶことを楽しんだり、友だちの考えや活動を共有できたことを楽しんだりできる子どもの育成と「学び合いの場としての学校」を創っていきたいと考えている。

#### (3) 研究の概要

教育課程の見直し  
授業改善  校内研究の充実＝教師力・授業力を高める

課題解決的な学習を通して、子ども一人一人の実態に即したきめ細やかな支援・学び合いやかかわり合いのある授業展開を行えば、基礎・基本の確実な定着が図れ、確かな学力を身につけさせることができると考え、授業改善の視点を4点に絞り取り組んだ。

- ① 課題解決的な学習パターン（安原モデル）の確立
- ② 学び合う姿のある活動
- ③ 支援と評価の工夫（認め合う活動 教→子，子←→子）
- ④ 教職員間での課題の共有

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

授業改善の4視点を整理し、個の学力向上・集団としての学力向上・教師の授業力向上を図るためにねらいに応じた取り組みを行った。

	ねらい	取り組み
1	基礎基本の定着	チャレンジタイム（算国 補充タイム）（毎週1時間）
2	個に応じた学力の育成	算数チャレンジプリントの活用
3	学習集団づくり	学習のルールづくり 子どもの育ち（学習面・生活面）の状況把握（年2回）
4	学力の実態把握	基礎学力調査（2～6年）
5	見通しのある授業づくり	安原モデルの積み上げ 中高 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つかむ</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">考える</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学び合う</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめる</span> 低 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つかむ</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなで</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめる</span>
6	授業課題の共有	授業評価（年2回）

#### B-1 チャレンジタイム・チャレンジプリントの活用

#### B-2 学習集団づくり

#### B-3 安原モデル

#### B-4 授業評価

### 3 指導の実際

1年〈いちばんながいものをさがそう〉

4つの具体物の長さを比べる方法を考え、長さ比べをする

【学び合う】 予想や根拠をもって自分の考えを発表し、聞き合う  
ペア学習（声かけ・協力）

5年〈平行四辺形の面積の求め方を考えよう〉

長方形に変形すれば平行四辺形の面積が求められそうだ！の予想をもとに、平行四辺形から長方形への変形を行い、どの変形も「縦×横」で面積が求められることを確認する

【学び合う】 考えを聞き合う（友だちの考え方を理解したり、その考え方を使って問題を解いたりできる）

C-1 1年 指導案

C-2 5年 指導案

C-3 1年 授業考察レポート

C-4 5年 授業考察レポート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

課題解決的な学習パターン「安原モデル」を全学年、どの授業でも共通化して行うことにより、子どもたちは授業の流れに見通しが持て、落ち着いて学習に取り組むことができるようになった。

「考えをもつ」場面で個に応じた支援の工夫・充実（ワークシート、ヒントカード、図、絵、テープ図、数直線図など）が見られ、子どもたちは自分の考えをもち、「学び合う」場での聞き合う姿につながってきている。

教師の支援では、学習履歴が次時に活用されるなど学習環境の整備を意識することで、前時までの想起や学習課題に到達するまでの時間短縮が図られ、安原モデルの「考えをもつ」「学び合う」場面に時間をかけることができ、学び合いを広げられるようになった。また、「まとめる」場面を大切にすることで、友だちの考えや発表の仕方の良いところを認めたり、新しい考え方に気づいた喜びを表現したりする子どもが増え、見方や考え方の広がるふり返りができるようになってきた。

学習集団づくりにおける「話し方の指導」については、授業評価等をもとに課題を分析し、基本的な話し方のパターンや教師のめざす姿の共通理解を図り、教師が模範となるよう心がけて指導することを確認してきた。教師は子どもの思いを多く汲み取るために「聞く姿勢」をもち、授業実践を行ったので、子どもたちの発言につながってきている場面が多く見られるようになった。

#### (2) 課題

安原モデルにおいては、子どもの実態に応じた教師の姿勢や支援を日々の実践の中からさらに積み上げ、全職員で共通理解しながら実践に活かしていかなければならない。

「つかむ」場面で解決意欲をもたせるための発問や教材提示の仕方が子どもの実態に合っていないために、「学び合う」場面での子どもの活動や考えが単調になり、学び合いが深まるどころまで到達できない場面も見られる。

子どもの考えやまとめ・ふり返りに対して、学習課題や次時の学習内容につながる適切な支援が十分でない場面も見られる。

研究授業だけでなく、場を設定しなくとも日常的に教職員間で課題の共有ができるような工夫が必要である。

D-1 1年 授業の様子

D-2 5年 授業の様子